Hello, Kids!

小学校英語
情報誌

2008
Vol.2-3

特集:小学校英語への期待と課題を語る

ハロウィーンの衣装も子どもたちの手作りです。

地域ボランティアの方にもご協力いただき，子どもたちが英語に親しめる活動を行っています。

巻頭言 小学校英語への期待
西垣 知佳子（千葉大学准教授）……2

これからの小学校英語への期待と課題
白畑 知彦（静岡大学教授）
原 万里子（埼玉県志木市立宗岡第三小学校教諭）
平賀 明美（千葉県市川市立中山小学校教諭）
吉田 裕介（東京都世田谷区立弦巻小学校教諭）……3

実践報告 『英語ノート』を使い始めて
大和田 智子（福島県福島市立北沢又小学校教諭）……6

“Impossible is Nothing!”
有明 志郎（大阪府吹田市立千里たけみ小学校指導教諭）……7

Hooray ALT! Christopher Kato（千葉県我孫子市ALT）……8

Say “Hello” with Alison! 根本アリソン（福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師）……8

神奈川県
横浜市立二谷小学校
斉藤忠雄先生

開隆堂

巻頭言

小学校英語への期待

千葉大学准教授　西垣 知佳子

平成20年3月28日，新学習指導要領が告示されました。平成23年度より小学校5・6年生において外国語（英語）活動が全面必修化されます。私は小学校英語に対して，中学校以降の英語では「できないこと」「足りないこと」の学びが起こることを期待しています。

早期英語教育の役割の一つとして，語彙の増強をあげる専門家は少なくありません。一方，以前より英語教師や研究者から，中・高英語教科書の問題点として生活語彙の不足が指摘されてきました。生活語彙は必要とされながら，これまでの英語教育の枠組みでは指導の余裕がなく，たとえば，「眉」，「懐中電灯」，「ごみ」と聞いてすぐに英語で，eyebrow, flashlight, garbage[trash]と答えられる日本人は多くはありません。小学校英語の導入によって，従来の英語教育では不足していた生活語彙の補強が期待されるところです。

千葉大学の研究グループでは，海外英語絵辞書20冊の語彙と子ども話し言葉コーパスから抽出された特徴語を統合した統計的データに基づいて，小学生に教えたい「生活語彙リスト」を作成しました。上述のeyebrowなどの語や，puppy（子犬），rooster（雄鶏），pear（洋ナシ），refrigerator（冷蔵庫），toothbrush（歯ブラシ），blanket（毛布），sandbox（砂場），slide（すべり台）などの語彙が選定されています。さらに，選定された生活語彙を楽しく身に付けるためのカード教材も開発しました。

一方，本年4月には『英語ノート（試作版）』とその指導資料が全国各地の拠点校に配布されました。そこで私たちは指導資料から，英語活動を通して児童が触れるであろう英文を収集し，出現語彙を調査しました。その結果，小学校英語の導入によって，これまで中・高では習う機会が少なかった「食料」「身体」「生き物」「娯楽」「職業」などの意味分野に関連する語彙が増強されることがわかりました。たとえば，食料ではcereal, cabbage, 身体ではshoulder, knee, toe, 生き物ではbutterfly, hippo, jellyfish, starfish, octopus, 娯楽ではtable tennis, 職業ではvet, wrestler, fire fighterなどです。

小学校英語を通して子どもたちは，中学校英語とは異なる切り口から選ばれた語彙を身に付けることでしょう。このことによって，中学・高校における生徒たちの自己表現活動が，さらに自由で活発になることを期待しています。

座談会 これからの小学校英語への期待と課題

司会　白畑 知彦（静岡大学教授・本誌主幹）
原 万里子（埼玉県志木市立宗岡第三小学校教諭）
平賀 明美（千葉県市川市立中山小学校教諭）
吉田 裕介（東京都世田谷区立弦巻小学校教諭）

白畑　小学校の先生から，小学校外国語（英語）活動についてどのようにやっていいかわからなくて困っているという声をよく聞きます。

今日は，「これからの小学校英語への期待と課題」というテーマの座談会で集まっていただきました。全国の先生方がどのようにやったらよいか考えている真っ最中だと思いますので，積極的にいろいろな意見を出し合っていければ，非常に有意義な座談会になると思います。よろしくお願いします。

新学習指導要領について

白畑　新学習指導要領では，目標に「外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う」とあります。

キーワードとしては「コミュニケーション能力の素地を養う」ということです。もう少しあとまで読んでみると，英語の言語能力を高めることが主じゃないことがもっとはっきりわかります。これは今の総合的な学習の時間でやっていることと，同じような路線ではありますよね。

では，素地を養うにはどうするかというと，まずは国際理解教育などと絡めて英語を入れていくということで，ここも今の路線と基本的に同じではないかと思います。ですから，コミュニケーション能力の素地というのは，国際理解とか，コミュニケーションへの態度とかいったところを中心に授業を構成していくのがよいのではないでしょうか。

もし，英語能力（スキル）を中心にやると，週1回であっても，年間35時間で2年間ですよね。今の中学1年生での学習事項ぐらいはやろうと思えばできてしまいますが，それが目的ではない。

でも，言語材料や語彙を制限し過ぎると，ここは中学校でやるからやらないようにしよう，ここもやらないようにしようと抑え過ぎることになりかねない。すると，年がら年中，Do you like apples? ばかりやるようになってしまう。中身をよく考えないといけないですね。英語を導入すれば，どうしたって中学校での内容が出てきます。そういう意味での前倒しはあります。『英語ノート』でも，最後はI want to be ～.です。want to beは中学校2年生で学習します。

言語や文化に対する体験的な理解とか，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度だとか，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ，これをコミュニケーション能力の素地と言っているんだと思います。

総合的な学習の時間とのかかわりや現状

平賀　千葉県市川市立中山小学校から参りました平賀です。私は3年前まで横浜市におりました。そこで英語学習をゼロから立ち上げていきました。今の学校では，1年生から6年生まで日本人の英語指導員が入ってくださっています。6週間に1度，自分の学年に英語指導員が来てくださるときだけ，その方を中心に英語の授業をやっています。最初に準備運動的な英語の歌をやったり，その時間の活動の素地になるような単語を使って遊んだりしています。

現在，私は低学年を担当しているので，子どもたちはすごく楽しく参加しています。低学年は，英語って楽しいなと思うんですが，やはり上の学年に進むほど，英語で話すことも多くなり，難しいようです。教材については，英語指導員の方が考えたり，作成したりしていて，すごく大変だなと思います。

吉田　東京都世田谷区立弦巻小学校から参りました吉田です。本校では，1学級に年間8時間，ALTが来ます。昨年までは業者主導で英語活動を行っていました。今年度は，学校で年間指導計画を簡単に立てて，始めたところです。区の中でも，年間3時間しか行っていない学校もあれば，校内研究として35時間やっているところもあって，かなり温度差があるのが現状だと思います。区から派遣されるALTは，どの学校にも均等に行き渡るようになっているようです。本校では加えて，学校で独自に見つけてきた外国の方を招いて，英語活動を行っています。

教材については，昨年度までは，業者の場合は業者独自のものを使っていました。学校で探した方も，自前に近い感じで作られていました。今年度は教員が分担して自分たちで用意しています。

原　埼玉県志木市立宗岡第三小学校から参りました原です。本校の場合は，中学校に来ているALTの時間を調整し，小学校にも来校していただいています。昨年は3年生以上が，外国の子どもたちとの交流活動が1学期にあり，2学期は特になく，3学期に1週間ほど英語活動をするというような感じでした。総合的な学習の時間の担当が，国際理解教育として，中学校の先生と相談してやっているので，その年によって違うと思います。実際，内容は年間指導計画があるわけではないので，コミュニケーション活動というか，挨拶やゲームなど，ALTにお任せという形でやっていることが多いようです。

ちなみに以前勤務していた市の場合は，アメリカに姉妹都市があり，

原 万里子先生

そちらからもALTの方が来ていて，週に1回は1日中いました。そこは小規模校でしたので，週に1回は，給食時間，休み時間，掃除の時間も含め生活科や国語など教科のいろいろな時間にALTとのコミュニケーションをとることができました。そのためか1年生の子どもでも，ALTに会うと，朝は“Good morning!”，“Hello!”などの挨拶や，片言でも教えてもらった単語でコミュニケーションをとっていましたし，帰りは，「さよなら」とか「バイバイ」じゃなくて，“See you!”と挨拶したり，普段でも自然にジェスチャーを入れて“Good!”や“So-so!”などのやりとりをしていました。

やはり，それぞれの市の取り組み方によって非常に温度差があり，中にいらっしゃる先生方の受けとめ方も大きく違う。そのあたりに今後の大きな課題につながるものがあるのかなと考えています。

白畑　静岡県でも御殿場市のある小学校にはALTが年中いて，給食や書写や図工の時間などでも一緒にいてくれるんです。そういう恵まれたところもあれば，その逆で，なかなかALTを雇ってもらえないとか，もっと難しいところも市町村によってはありますね。

とは言っても，外国語活動は来年から前倒しで，平成23年からは全面実施で行うことになります。そのための体制をこれから整えなくてはならないですね。基本的には，ALTがいなくても，学級担任の先生が外国語活動をやれるようになるということですから。

これからの小学校英語への期待と課題

平賀　学級担任ができるようにということでは，英語活動をやるときに，積極性やボディーランゲージなどのコミュニケーションのお手本をまず見せることが大事だと思いますが，誰もがとなると難しいです。

白畑　確かに先生にもいろいろな性格の人がいます。たとえば，音楽科は小学校の先生みんなが教えているわけではないでしょう。英語活動は音楽科と似ているところもあるので，音楽科と同じような形態でやるのも個人的にはいいんじゃないかと思います。

平賀　以前，私と同学年を組んだ先生で，英語が苦手な先生がいらしたので，私がやって見せたことがあったのですが，「あなたみたいにできないわ」と言われました。

白畑　食わず嫌いの人はいますね。やってみると，けっこうおもしろいといってやり始める先生もいるので，最初から自分でバリアを張っちゃうのはよくないと思います。しかし，僕ぐらいの年になって，いきなり「来年から音楽を教えろ」という感じで「英語をやれ」と言われるわけでしょう。5，6年の担任になりたくないという先生が出てきちゃったりする可能性だって，なきにしもあらずだなと思いますね。

原　実際に英語活動が入ってくるのですから，やはり背を向けるのではなくて，工夫次第だと思うのです。苦手なものを表に出すのではなくて，チームを組むというか，学級数が少ないところならば，5，6年でタイアップするなり，いろいろな工夫はあると思います。英語活動を担任が行う意義は，思考力だとか，判断力だとか，表現力を育成するのは，個々の児童を一番よく知っている担任だからこそできるということだと思うのです。今どうしようと不安に思っている方たちには，こんな方法もある，それこそ「生」でだめならば，いろいろなCDも出ている，単発でだめならば，チームを組めばいいなどと柔軟に考えればいいのではないでしょうか。

白畑　チームを組むというのはいいかもしれないですね。1人で悩むのではなくて，一緒になって勉強会をしていくことなども大事かもしれないですね。

今年度，『英語ノート』を拠点校以外にもう少し配って，より多くの先生方が目を通しておけるようにしたほうがよかったかもしれない。

吉田　浸透させる時間は欲しいです。そんなに焦らなくていいのにという印象がすごくあって，ベテランの先生でも，やる気になれば，今までの経験を生かして，すごくいい授業ができると思うんです。その先生たちのやる気を起こさせるには，もう少し時間をかけて浸透させてから本格実施をしたほうがいいのではないかと思います。

音楽の話が出ていましたが，たとえば，今までずっと音楽は専科の先生に任せていた先生が，急に自分で音楽をやるとなると，「えっ!」と思うと思います。ただ，やはり大学で免許を取るために音楽を学んできた，あるいは，図工を学んできたとか，ある程度の素地があるので，「よしやるぞ!」という気になると思うんですが，英語に関しては，子どもたちに教えるための教養を身に付けていないから自信がないという先生が多くいらっしゃると思うんです。

白畑　今，吉田先生が言われたのは大事な点の1つで，要するに，これから先生になっていく大学生のための英語活動に対応する授業を，大学側が設けないといけないんですよ。現職教員の研修もありますが，これから教員になっていく人に教えていかなくてはならない。

静岡大学教育学部の場合，1学年の定員が400人でそのうち教員養成課程の学生が260人なんです。260人の学生が全員履修しなければいけなくなると，1クラス40人ぐらいとしても，7クラス分くらい新しく授業を作らないといけないんです。そうすると指導者の数が足りない。教員養成の大学側のほうも，いろいろな問題があるんです。現職の先生ですと，免許更新制のときに勉強するというのが1つの手ではありますが。

白畑 知彦先生

吉田　研修ということで言うと，先日，東京都では，外国語活動の中核教員を育てるという研修がありました。来年度と再来年度，計30時間分を研修の時間として，計画書を作って出すことになりそうです。研修内容の作成・実施も現場の教員に任されている感があって，現場にとってすごく負担が重いと思います。

たとえば，校内で研究しているのが国語の研究であれば，（※世田谷区は全国で唯一の日本語特区でもある）別にまた自分たちで英語の研修もやらなければいけないということで，こうなったら東京は全部校内研究を英語でやるのではないかという冗談話まであるぐらいです。もう少し必要な資料なり時間をいただかないと，厳しいものがあるかもしれないですね。

吉田 裕介先生

白畑　やるとなったなら，それにふさわしい方針をもう少し出してもらわないと，やる側は大変ですよね。あなたたちにあとは任せるからという感じでやらされちゃったら，今でこそいっぱいいろいろなことがあって大変なのに。英語が入ったからといって，ほかの教科をおろそかにするわけにはいかない。現場のいろいろな意見をくみ取って，文部科学省も国としての方針を早急に立ててほしいと思いますね。

英語活動と同時に求められること

平賀　今，英会話とかコミュニケーション活動が全面に出ていますが，外国の文化だったり，自国の文化について知らなければいけないという面もありますよね。私は幼い頃，外国の人と触れ合うことが多かったのですが，自国の文化について知らないことが多く，恥をかいたことがあります。自国の文化やいいところなど，英語の時間や総合の国際理解の時間とかで，どうやって伝えていくか考えないといけないと思います。

原　他国を知ることによって自国を知る，自国を知ることによってより他国を知ろうとするという相互関係の中での学びの場だから，両方の学び合いを広げていく必要がありますね。

白畑　外国の遊びなりゲームを紹介する際に「では日本ではどうなのだろう?」といつもふり返ってみるといいのではないですか。だから，他教科との関連は大切だと思いますね。社会科なんかと上手に結びつけたりできると，小学生の目線での自国と他国との比較という部分でおもしろいと思いますね。文化比較などをするときに，先生も全部知っているわけじゃないから，一緒に覚えていきましょうという姿勢でやると，けっこう気楽にできるんじゃないかと思います。

今後に向けて

原　年間35時間という時間で英語が入ってきますので，やはり校内の受け入れ体制を整えていかなければいけないと思います。先生方の中で受けとめ方の温度差が確実にありますので，そのあたりを抵抗なく，無理なく学校の実態に合わせてやっていけるように工夫することが今必要かなと思っています。埼玉県でもいろいろな研修があります。そういうところで得たことを生かしていきたいと思います。

ただ，英語だけが入ってくるわけではなくて，来年度からの移行期間中には，体育も算数も理科も授業時数が増えるわけで，ほかの課題もありますので，そのあたりも含めて，英語活動というものをより充実させるように努力していきたいと思います。

吉田　この場に来たからにはやはり，英語に期待している一人ではあるんです。今嫌がっている先生も，きっと100％嫌ではないと思います。小学校の教員の強みというか，得意なところは自分のいろいろなアイディア・工夫を生かして授業を工夫できることだと思うんです。

『英語ノート』を生かして英語の授業を充実させるためにも，いろいろ工夫させてもらえるような時間があれば，きっと現場の先生たちはそれに応えられるだけの力があると思います。英語をやるということで動き出したわけですから，どんどん力を発揮するために，こういった充実した教材を活用して，実りある英語活動にしていきたいと思っています。

全員　すばらしい!

平賀　私も含めて，英語活動に関してはすごく不安を持っている先生が本当に多いと思うんです。先ほど吉田先生もおっしゃったように，素地を作る時間というか，余裕があるといいなと思います。

平賀 明美先生

私も英語が好きになって，英語「学習」が，子どもと教師のお互いにとって楽しい学習「楽習」になるとすごくいいなと，そういうことを考えながらこれから計画を立てていきたいと思います。

白畑　やると決まったことなので，マイナスに捉えてやるのではなくて，吉田先生が言われたように，プラス思考で考えていくことが大事ですよね。難しいと考えている先生方を巻き込んで一緒に取り組んでいくというような工夫は，今日お話しして大事なことだなと改めて思いました。

それから，ほかの先生を巻き込んでいくときに，『英語ノート』や『指導資料』などを活用して，校内研修でも何でもいいのですが，一緒に読んだり，子ども役と先生役を演じたりするような工夫をすると，食わず嫌いの先生も，おもしろいなって思うようになるんじゃないでしょうか。

言葉の学習というのは，基本はやはりすごく楽しいものだと思うんです。ほかの人と話せるわけですから。楽しさを前面に出してどんどん英語を使っていくようにすれば，仲間が増えていくんじゃないですかね。

日本人の100人に「英語とか，どんな外国語でも話せるようになりたいですか」と聞いたら，きっとみんなそうなりたいと言うと思うんですよね。心の底にはそういう気持ちを持っていると思うんです。先生も含めて，そういう気持ちを大切にして，子どもたちと一緒にみんなで楽しくやっていくというのが大事かなと思っています。

実践報告

『英語ノート』を使い始めて

福島県福島市立北沢又小学校教諭　大和田 智子

『英語ノート』を使い始めて数か月ではありますが，これまでの様子から気づいたことを徒然なるままに…。

1. どれにしようかな? 移行期こそ履歴が大切!

本校では，5・6年生の英語活動は，年間20時間設定しています。『英語ノート』を受け取ったとき，35時間の活動計画がきちんと立てられていましたので，まずは，本校独自の年間活動計画と突き合わせ，関連しているユニットを20時間分選択しました。これは，児童の今までの学習履歴を生かすためです。1レッスン4時間の構成ですが，内容によっては2〜3時間にしたり，複数のレッスンの内容を融合させたりと，学年の先生方で話し合い，自分の学年の児童の実態に合った『英語ノート』版活動計画を立てました。移行措置期間中は，この計画作成がとても大切になってくると思いました。

現在は，3・4年生にも10時間ずつ英語活動が配当されています。今の3・4年生が卒業するまでに，全部のレッスンのトピックを経験できるように，高学年が選択しなかったトピックを中学年の活動の中に取り入れていこうと考えています。移行期間中は，今まで以上に学びの履歴が大切になってくるので，記録をさらに大切にしようと思います。

2. たくさんのゲームと 短めのチャンツ，ヒントがいっぱい

『英語ノート』の指導資料には，各時間ごとにいろいろなゲームが紹介してあり，進め方もていねいに載っています。これは重宝します!　その時間でなくても，多少アレンジすれば使えるゲームがたくさんあります。私は，このゲームだけを取り出してカード式にまとめ，学習形態ごとに整理してみようと思っています。カードを並べるだけでけっこうおもしろい活動の流れができるのではないでしょうか。

付属のCDに収められたチャンツや範読は「え，終わり?」というぐらい短いです。使いたい箇所を使いたい時間だけ活用するにはいいかなと思います。ただし，ご用心!　ぼうっとしているとCDを止めるタイミングを誤ります!　トラックナンバーは事前に必ず確認し，メモしておかないと慌てることに…。

3. ALTは重要! 異国の文化の匂いから感じること!

基本はALTとのTTで活動案が示されていますので，HRTだけで進めるときには小技が必要です。私はパペット人形を愛用しています。福島市ではALTの数が少ない分，外国での経験が豊かな日本人の非常勤講師が英語活動をサポートしています。外国でのお話など，興味深く聞くことができます。けれども，ALTなどネイティブのほうが効果があがることもあります。たとえば，「おいで」のジェスチャーが国によって違うことを発見させる場面です。日本人同士の寸劇で，大根役者ぶりを遺憾なく発揮し，そのため(?)子どもたちは気づいてくれましたが，「えっ，そうなの!」という衝撃は少なかったようでした。数少ないALTの来校日に，ここぞという活動を充てられるように洗い出しは必要だと思いました。

4. ミニ模擬授業は，やる気をチャージ!

全教科を教えているのに，なぜか英語活動になるとかまえてしまう先生も多いようです。放課後のちょっとした時間を使い，先生方を相手に英語活動担当者が簡単に活動の進め方を実演してみます。すると具体的にイメージできるためか，「うちの学級の子はこうしたほうがいいと思う」「こんな方法もあるんじゃない?」と良いアイディアが出されます。ほんの15〜20分ですが，この時間が英語活動を進める原動力になっています。また，福島弁のジャパニーズ・イングリッシュでも，アクセントを正確に発音するようにしていると，児童はCDを聞かせたときにきちんと言葉を聞き取ることができるようです。活動のイメージをもつことと自信をもつことがとても大切だと思います。

実践報告

“Impossible is Nothing!”

「英語活動の可能性は無限でんがな!」と気楽にかまえることが大事

大阪府吹田市立千里たけみ小学校指導教諭　有明 志郎

物事を楽観的に捉える方とそうでない方がおられます。もちろん私は思いっきり前者です。

本校は英語活動を始めて6年目。文部科学省の拠点校・国立教育政策研究所の調査校でもあります。

そして，今年度からは『英語ノート』も児童に配布され，俄然やる気が出てきました。「とうとう英語が小学校で始まってしまう?」のではなく，「待ちに待った英語活動がいよいよ始まる!」と考えるほうがお得です!

1. 語学のゴールデンエイジ!

さて，本校では3年生以上に，年間35時間の英語活動の時間を実施してきました。平成23年度から外国語(英語)活動が5・6年生で必修化となるのを受けて，大きくカリキュラムを見直しました。しかし，本当は低・中学年の時期にたくさんの英語に触れるチャンスがあるべきだと感じています。それは話す力や聞く力，脳の発達が著しいこの時期が「語学獲得のゴールデンエイジ」だからです。1時間の英語活動の授業でなくてもかまわないので，心に沁み込む英語に触れる体験を工夫して入れたいものです!

2. 『英語ノート』はけっこうパワフル!?

4月にもらった『英語ノート』を分析してみました。本校で1年生から6年生で行う英語活動のカリキュラムが全部，5・6年生の2年間に凝縮・網羅されています。また，先進校で研究開発したアクティビティー，ゲーム，クイズもうまく収録されています。おまけの絵カードやアルファベットカード，CDまで付いて，至れり尽くせりです。

しかし，これを使いこなすには十分な指導経験と教材研究が要ります。特に自校のカリキュラムが整理されていないと膨大な情報と語彙が一時に児童の頭に流れ込み，混乱と消化不良を起こすのではないでしょうか?

教科書ではないので指導者が取捨選択すべきです。しかし，何を教え，何を教えないと判断するのは困難であり，不安ですよねえ。

そこで大切なポイントはこの2つです。

①子どもたちの興味・関心のあるもの

②子どもたちが心の底から必要としているもの

3. タイムリーな課題設定を盛り込む

今年は北京オリンピックがありました。参加国の名前，競技の名前，種目やルールの英語。導入できる事がらが目白押しです。国際理解学習も並行して行います。北京を“Beijing”と書くことも子どもたちは初めて知りました。

その他にも，興味を持った国のあいさつ，食事，有名な人やもの，観光地やおみやげなどについて調べてみます。これらの活動は『英語ノート』5年生のLesson 1 あいさつ/5 衣装/6 外来語などと関連づけて扱うことができます。

また，『英語ノート』6年生ではLesson 1と2でアルファベットを扱います。文字指導には抵抗があったり，国語教育の観点から難色が示されたりしていますが，子どもたちは普通に自分たちの身の回りにある文字の一種類と捉えています。Tシャツ，バッグ，文房具などあらゆるところに英語の言葉が散りばめられていますから。

表題の“Impossible is Nothing!”という言葉は，あるスポーツメーカーのコピーですが，発音や意味を知り，「6年の君たちはわかると思うが，いろいろな困難に立ち向かうとき，覚えていたい言葉やなあ」と話が膨らみました。

4. 英語が通じる喜びを! 感動を!

本校の6年生児童は今，秋の広島への修学旅行での「英語でインタビュー大作戦」の準備で忙しくしています。習った英語が初めて出会った外国の方に通じるのか?　聞きたいことが聞けるのか?　みんな今の段階では不安でいっぱいですが，この取り組みを終えたときの感動と笑顔は，毎年「僕らの英語が通じた!」「ブラジルの人といろいろお話ができた!」「アフリカから来てた人と写真を撮ってん!」と話が尽きません。この体験こそが，生涯に渡って英語を学習するうえでのDNAとなるのです。

Hooray ALT!

■(2)「た」めになる

In this corner, I suggest the "three「た」s" for good lessons.

(1)「た」のしい，(2)「た」めになる，(3)はっ「た」つ段階に合っている

This time, I will discuss the second「た」in detail. As I talked about in the previous issue, lessons that are fun are memorable. However, a lesson whose only purpose is to have fun is of little educational value. It might spark students' interest in a subject or motivate them in some way but English lessons that are focused on fun rather than goals are a thing of the past.

Lesson goals should focus on real life tasks. Vocabulary and phrases should not be learned in isolation but be used in situations modeled after real life, using real items whenever possible. Activities should be designed around the goals, not the other way around.

When designing lessons I ask myself two things: "When is this language used in real life?" "What natural phrases fit with these target words?" I then create activities around those answers. This helps to insure that lessons are not only fun but also useful.

Christopher Kato
（千葉県我孫子市ALT）

Say "Hello" with Alison!

根本 アリソン
イギリス出身・1989年より福島県で英語講師として活躍中

■イギリスの秋の音～Autumn in the U.K.～

イギリスでは9月が新学期です。ほとんどの学校で小学校から制服を着ます。10年前まではジャッケットにワイシャツ，ネクタイという格好でしたが，現在はポロシャツや学校のマークが入ったトレーナにズボンやスカートが一般的で，以前より着心地がよく，手入れもしやすくなりました。

10月31日の「ハロウィーン（Halloween）」が近づくと多くの店に関連グッズが並び，日本でもこの日を楽しみにしている人が年々増えています。発祥地は，紀元前400年頃のイングランドですが，その後アメリカに渡り，今ではアメリカのほうが大規模に行われています。

イギリスの秋を代表するお祭りは，11月5日に行われる「ガイ・フォークス夜祭り（Guy Fawkes Night）」です。この日，イギリスの夜空は数多くの焚き火で赤く染まります。日本では夏のイメージがある花火も，イギリスではこの日だけ特別に打ち上げられます。

このお祭りは，今から400年前，カトリック教信者を厳しく規制していた国王ジェームズ1世に反対する運動が起こり，若者13人が国王や議員たちを殺そうと議事堂の爆破を企てたことに由来します。計画は事前に発覚し，メンバーの一人ガイ・フォークスが逮捕されたことで失敗に終わりました。それ以来，国民が「ガイ」という人形を作って焚き火で燃やし，花火を打ち上げるようになったのです。

私も子どもの頃，この大きな焚き火を見に行くのが楽しみでした。暖かい格好をして，ほかほかの焼き芋を食べたり，ココアを飲んだりしました。花火の音はイギリス人にとって夏ではなく，秋の音なのです。

（福島県双葉郡大熊町　外国人英語講師）

小学校英語情報誌
Hello, Kids!
Vol.2-3（通巻7号）
定価120円（本体114円）
送料80円

平成20年9月16日印刷　平成20年9月30日発行（年4回発行）　編集兼発行人　山岸　忠雄
印刷所　株式会社興陽社　〒113-0024　東京都文京区西片1-17-8
発行所　開隆堂出版株式会社　〒113-8608　東京都文京区向丘1-13-1
☎03(5684)6121（営業）、(5684)6118（販売）、(5684)6115（編集）　http://www.kairyudo.co.jp

KAIRYUDO
開隆堂出版株式会社
〒113-8608　東京都文京区向丘1-13-1　☎03(5684)6111

北海道支社　〒060-0061　札幌市中央区南一条西6-11　札幌北辰ビル8階　☎011(231)0403
東北支社　〒983-0043　仙台市宮城野区萩野町1-11-1　萩野町Mビル2階　☎022(782)8511
名古屋支社　〒464-0802　名古屋市千種区星が丘元町14-4星ヶ丘プラザビル6階　☎052(789)1741
大阪支社　〒550-0013　大阪市西区新町2-10-16　☎06(6531)5782
九州支社　〒810-0075　福岡市中央区港2-1-5　FYCビル3階　☎092(733)0174